

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 3 日現在

機関番号：15301

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2010～2013

課題番号：22530197

研究課題名(和文) 平等と福祉に関する経済思想史的研究

研究課題名(英文) A study of egalitarian tradition in the history of social and economic thought

研究代表者

新村 聡 (Nimura, Satoshi)

岡山大学・社会文化科学研究科・教授

研究者番号：00167561

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円、(間接経費) 930,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、平等と分配的正義と福祉に関する思想が、古代から近代までどのように発展してきたかを、プラトン、アリストテレス、トマス・ホッブズ、デイビッド・ヒューム、アダム・スミスを中心に検討した。とくにプラトンとアリストテレスの「2種類の平等」論とそれに基づく分配的正義論を、近代の思想家たちがどのように継承したかに注目して考察した。

研究成果の概要(英文)：This study examined the egalitarian tradition in the history of social and economic thought, especially focusing on Plato, Aristotle, Thomas Hobbes, David Hume, and Adam Smith.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学，経済学説・経済思想

キーワード：平等 分配的正義 アリストテレス アダム・スミス

1. 研究開始当初の背景

現代世界における不平等の拡大を背景として、平等、正義、福祉などをめぐって内外で理論的・思想的・実証的研究が発展している。しかし平等論の思想史的研究は一部の思想家に集中しがちであり、古代のプラトンやアリストテレス、近代のトマス・ホッブズやデイビッド・ヒュームらの平等論の検討はほとんどなされていない。またアダム・スミス研究では、スミスを不平等容認論者とみなす旧来の通説とスミスの平等論に注目する新しい研究潮流が並存しているが、スミスの平等論を思想史に位置づける研究は少ない。

2. 研究の目的

本研究は、平等と分配的正義と福祉に関する思想が、古代から近代までどのように発展してきたかを、プラトン、アリストテレス、トマス・ホッブズ、デイビッド・ヒューム、アダム・スミスを中心に検討する。とくにプラトンとアリストテレスの「2種類の平等」論とそれに基づく分配的正義論を、近代の思想家たちがどのように継承したかに注目して考察する。

3. 研究の方法

(1) プラトンとアリストテレスの正義論および平等論の全体を比較考察して、両者に共通する古代の正義論および平等論の特質を検出する。

(2) とくにプラトンとアリストテレスの政体論に注目して、分配的正義論と平等論の関連を検討する。

(3) 古代の正義論と平等論を、ホッブズ、ヒューム、スミスらの近代の正義論および平等論と比較考察して、両者の間の継承と発展の関係を明らかにする。

4. 研究成果

(1) プラトンの正義論および平等論の考察
プラトンの正義論および平等論について、

君主政・貴族政・寡頭政・民主政の各政体(国制)における参政権の平等な分配の問題を中心に考察した。とくに分配的正義論と「2種類の平等」(単純平等と比例的平等)論との関連に注目して、平等論を考察した。

(2) アリストテレスの正義論および平等論の考察

アリストテレスの正義論と平等論が、プラトンの分配的正義論と「2種類の平等」論をどのように継承し発展させたかについて検討した。とくに比例的平等論としての分配的正義論における価値相対主義と直観主義に注目して考察した。

(3) トマス・ホッブズの正義論および平等論の考察

ホッブズ『リヴァイアサン』の正義論(自然法論)と平等論を、アリストテレスの思想の批判と継承という観点から検討した。とくにホッブズ『リヴァイアサン』における第2自然法と第10自然法の関係に注目して、『法の原理』『市民論』『リヴァイアサン』の3著作を比較して、理論的發展過程を考察した。

またホッブズ平等論を基礎づける規範原理として、自己保存の利己主義的原理と「福音書の法」(黄金律)の直観主義的原理とがあり、両原理はプラトン『法律』やアリストテレス『弁論術(レトリケ)』における説得術の批判的継承であることを明らかにした。

(4) アダム・スミスの貧困論と福祉論の考察

アダム・スミスの貧困と福祉の思想をめぐって、「富」「富裕」「福祉」などの諸概念の比較、「必要」「必需品」「便益品」などの諸概念の発展と変化、貧困の自己責任論と国家責任論の区別と関連、スミスとマンデヴィルの貧困原因をめぐる論争などについて考察した。

(5) デイビッド・ヒュームとアダム・スミスの社会契約論批判と統治原理論の考察

ヒュームとスミスの社会契約論批判を比較し、統治原理論におけるアリストテレス的徳論のヒュームとスミスにおける受容の差異、社会契約論批判におけるルソーとスミスの関係、抵抗権論と公平な観察者論の関係、『国富論』における社会契約論批判の意義、などについて考察した。

(6) アダム・スミスの分業論と人間発達論の考察

スミスの分業論を、人間発達における平等という観点から、マルクスの分業論と比較して考察した。人間の全面発達の理念に関して、マルクスは分業を全面否定するのに対して、スミスは就業前教育・労働の知的専門性・余暇時間などを条件として分業を肯定した。

(7) アダム・スミスの農工分業論と賃金論の

考察

スミスの農工分業論と賃金論を、有効需要と平等の関係に留意して検討した。スミスは、高賃金（平等な所得分配）が総需要を拡大する効果を認識していたが、生産的労働を不生産的労働よりも重視するために、高賃金が生産的労働者の労働生産性を高めるという供給サイドの効果を強調したと考えられる。

(8) アダム・スミスの社会的自由主義の考察
『国富論』における 高利禁止などの金融規制政策と、 税制を通じた所得再分配政策とを考察して、スミスが平等を重視する「社会的自由主義」の先駆者であることを明らかにした。

(9) アダム・スミスの平等論の考察
スミスの平等論について、 出来高賃金、 未開社会と文明社会の比較、 所得分配の長期的動態、 課税による所得再分配、 の 4 点を中心に考察して、かれの平等論の全体像を検討した。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 2 件)
林祥瑜, 新村聡, 中国における日本語教育と経済格差 南京市 4 大学の比較調査から, 北東アジア経済研究, 査読無, 10 号, 2013, 31-40

新村聡, アダム・スミスの社会的自由主義金融規制政策と所得再分配政策を中心に, 経済科学通信, 査読無, 129 号, 2012, 62 - 67

〔学会発表〕(計 9 件)
新村聡, アダム・スミスと功利主義, 日本イギリス哲学会大会(東京: 東洋大学), 2014 年 3 月 30 日

Niimura, S., Adam Smith's Four Views on Economic Equality and Inequality, the 17th annual ESHET(European Society for History of Economic Thought) conference, London: Kingston University, 17 May 2013

新村聡, ホッブズ『リヴァイヤサン』の第 2 自然法は何を意味するのか, 日本イギリス哲学会大会(仙台: 東北大学), 2013 年 3 月 26 日

新村聡, トマス・ホッブズにおける近代的平等論の成立 アリストテレス批判から黄金律へ, 社会思想史学会(東京: 一橋大学), 2012 年 10 月 28 日

新村聡, トマス・ホッブズにおける近代的

平等論の成立, ヒューム研究学会(京都), 2012 年 9 月 7 日

Niimura, S., Adam Smith's Two Views on the Relationship between Economic Development and Equality, 人間発達の経済学日中会議札幌集会(札幌: 北海道教育大学), 2012 年 9 月 29 日

新村聡, アダム・スミスの社会的自由主義金融規制政策と所得再分配政策を中心に, 経済学史学会(小樽: 小樽商科大), 2012 年 5 月 27 日

新村聡, 分業と人間発達, 人間発達経済学国際会議(北京: 中国政法大学), 2011 年 4 月 24 日

新村聡, 分業は人間発達にどのような影響を与えるか A. スミスと K. マルクスの見解の比較, 人間発達の経済学日中会議(京都: 京都大学), 2010 年 12 月 11 日

〔図書〕(計 6 件)
許崇正, 大西広, 編著, 人間発達経済学新進展, 北京: 中国经济出版社, 2012, 新村聡, 分工与人的發展[分業と人間発達], を分担執筆, 290(66-73)

経済学史学会, 編, 古典で読み解く経済思想史, ミネルヴァ書房, 2012, 第 9 章, 新村聡, 労働と賃金 アダム・スミスの分業論と高賃金の経済論, を分担執筆, 301(197-217)

中村浩爾, 編著, アダム・スミス『法学講義 A ノート』Police 編を読む 文理閣, 2012, 新村聡, アダム・スミス『法学講義』行政論の主題と構成, を分担執筆, 196(3-18)

服部正治, 竹本洋, 編著, 回想 小林昇, 日本経済評論社, 2011, 新村聡, アダム・スミスの農工分業論と賃金論における有効需要の問題 小林昇説への問題提起, を分担執筆, 383(34-51)

佐々木武, 田中秀夫, 編著, 啓蒙と社会文明観の変容, 京都大学学術出版会, 2011, 第 10 章, 新村聡, D. ヒュームと A. スミスの社会契約論批判と統治原理論, を分担執筆, 448(241-270)

小峯敦, 編著, 経済思想のなかの貧困・福祉 近現代の日英における「経世済民」論, ミネルヴァ書房, 2011, 第 1 章, 新村聡, アダム・スミスにおける貧困と福祉の思想, を分担執筆, 357(34-63)

6. 研究組織
(1) 研究代表者
新村聡 (NIIMURA, Satoshi)

岡山大学・大学院社会文化科学研究科・教授
研究者番号：00167561